

本サービスにおける著作権および一切の権利はアイティメディア株式会社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスの出力結果を無断で複写・複製・転載・転用・頒布等を行うことは、法律で認められた場合を除き禁じます。

世界を「数字」で回してみよう(18):

## ダイエットへの欲望は“種存続の危機”に勝るのか

<http://eetimes.jp/ee/articles/1508/24/news038.html>

痩せすぎは出産リスクを高める可能性があると考え、ダイエットとは、「種の存続を危機にさらす可能性のあるもの」以外の何物でもない気がします。それなのに、なぜ、現代人は「痩身=美しい」と認識するのか。今回は、読者の皆さまからいただいた10の仮説を検証したいと思います。

2015年08月24日 11時00分 更新

[江端智一, EE Times Japan]



「世界を『数字』で回してみよう」現在のテーマは「ダイエット」。人類の“永遠のテーマ”ともいえるダイエットを、冷静に数字で読み解きます。⇒連載バックナンバーは[こちらから](#)

[前回](#)お知らせしましたが、この「ダイエット連載」に合わせて、わが家でも、ダイエットプロジェクトを進めております。今回、このプロジェクトで、顕著な成果を出したのは嫁さんでした。彼女は高校時代の体重まで戻すことに成功したのです。

私の方に向かって走ってくる時、軽やかなステップを踏んで、宙に浮いている嫁さんに、私は完全に見とれてしまいました ―― 結婚20年目の「嫁萌え(よめもえ)」でした。



結婚20年目の「嫁萌え(よめもえ)」

編集者のMさん(女性)は、原稿受領の確認メールに、『嫁萌え、いいですね～～!ラブラブなご夫婦がうらやましくて、ため息が出ました』とのコメントを付けてこられましたし、原稿を読んだ長女は、「本当にママのことが好きなんだねえ」と、あきれた顔で言っていました。

普通の人であれば、これは「ラブラブ」「のろけ」「バカップル」などと片づけられ、特に、配偶者を賞賛することを美德とはしないわが国において、私のような中年が、このような記述することは好まれないようです。

でも —— みんな、勘違いをしている

私は、嫁さんを愛していることを言いたくて、この出来事を書いた訳ではないのです(もちろん、嫁さんは愛していますけど)。私がどうしても納得できないのは、「ダイエットに成功してスリムになった嫁さんに『萌えた』』という、その事実にあるのです。

私が、真に嫁さんを愛しているのであれば、24時間四六時中、嫁さんに『萌え』続けていなければ、筋が通らないじゃないですか。

まるで私が、「スリムでない嫁さん」ならば、愛することができないみたいじゃないですか(ここまで原稿を読んだ後輩は、「江端さん、あなたって、やっぱりバカなんじゃないですか?」と言いました)。

この『嫁萌え』は、私の気持ちでない「何か別のもの」が突き動かしているものであると考え

ないと、私は、自分の愛を信じていることができないのです。ですから私は、どんな手段を用いても、この『嫁萌え』の発生原因を突き止める必要があったのです。

## 全ての数値が「やせればモテる」を示している

---

こんにちは。江端智一です。

[前回](#)、私は、「ダイエットをしている状態の体は美しいか？」という仮説を、データを使いながら検証していきました。

そして、「『美しい』を客観的に判断するのは難しい」とした上で、「ダイエットをしている状態の体型に『商品的価値』があること」を明らかにしました。

そもそも「痩せる」ことはとても難しいので、その商品の数は少ないです。つまり「希少価値」があるということです。例えば、一般人の参入が困難な芸能界においては、ほとんどの商品（女優、女性タレント、アイドル）は痩せています。「痩せた体型」というのは、まるで、需要に対して供給が圧倒的に少ない、レアメタルの取引市場の商品のようです。

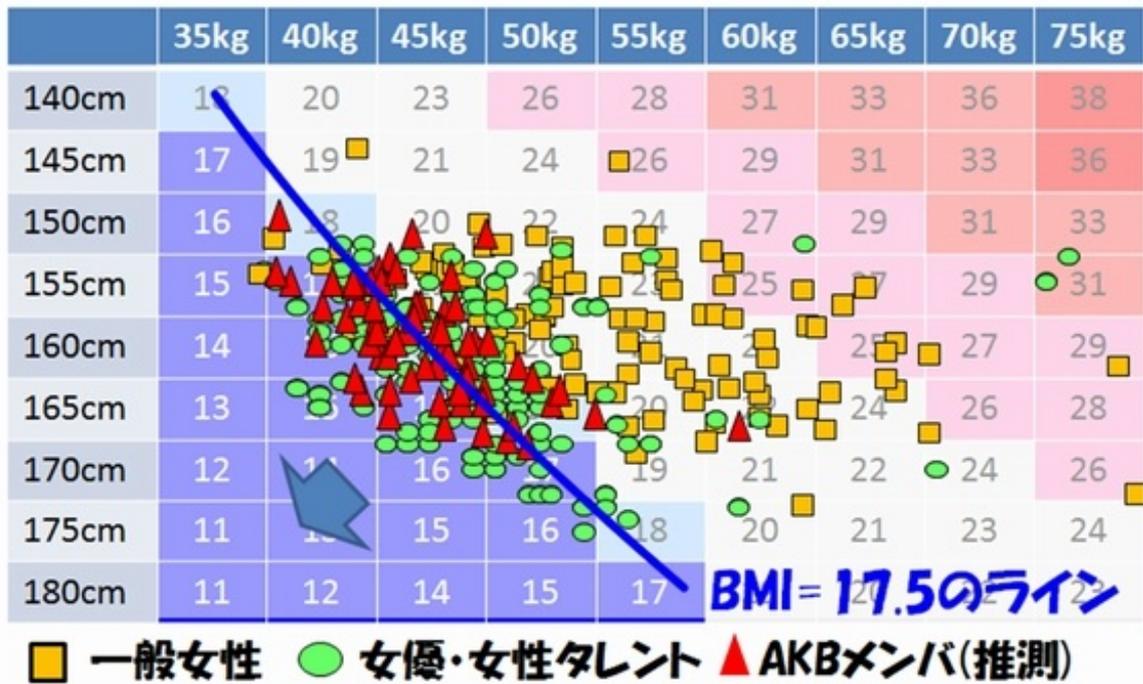
「痩せれば、モテ（やすくな）る」—— 全ての数値データは、その事実を示しています。

その一方で、種の保存法則に基づいて考えると、「ダイエットをしている状態の体型に商品的価値があること」は、まったく矛盾した話になるのです。

過度な痩身ダイエットは、出産リスクを高めます。BMI=18.5以下でもリスクがあると言われていますが、私が作った推論エンジンでは、アイドルグループAKBメンバーの50%以上が、それよりも低い、BMI=17.5以下という結果を叩き出しています（女優、女性タレントもほぼ同程度）

。

## 芸能人 v.s AKB v.s 一般女性(20.2歳)



上図は、前回ご紹介した、一般人と芸能人のBMIの散布図です。どう見たって、一般女性の方が出産リスクは小さいです。種の保存法則から見れば、芸能人の女性やAKBグループのメンバーは、出産リスクの高い対象として避けられる存在であるはずですが。

しかし、多くの女性はそのスタイルに近づきたいと願い、多くの男性が、そのような女性を求めているのです。

### 痩身を「美しい」と思う10の理由

先月の連載で、私は読者の皆さんに、『『痩身ダイエットは種の存続が危機にさらされる可能性ががあるにもかかわらず、痩身が美しいと認識されてしまう理由』を合理的に説明する仮説』を募集しました。

今回は、募集に応じていただいた皆さんの仮説の概要をご紹介します。

#### 【仮説1】現代の日本では、SEXの欲望が発揮できないため(ネット性欲処理システム化論)

種を保存させるために自然が準備してくれた「性欲」は、今や、オートメーション的に処理され十分に機能なくなっています。実際、インターネットによって、男女を問わず性欲処理用のコンテンツやデバイスが、手軽で安価に入手可能です。

(江端の所感) 私は、今のペースで人口が減り続けていけば、西暦3222年に日本人の数がゼロ

口になるという計算結果を出したことがあります(参考)。核戦争ではなく、インターネットが人類を絶滅させるかもしれないという仮説は、説得力があります。

#### 【仮説2】出産時に出産リスクを回避していれば十分であるため(出産リスク幻想論)

痩せるのは難しいですが、太るのは簡単です。だから、痩せていることは出産リスクになりません。

(江端の所感) 出産リスク回避の方法としては、その通りですが、「痩せている異性(主に女性)」を「好む(主に男性)」理由の説明にはなっていないと思います。それに、過去の人類の歴史(数万年オーダ)において「太るのは簡単」ではなかったと思いますので、簡単にリスク回避ができたとは思えません。

#### 【仮説3】自然淘汰と性淘汰は別の話であるため(性淘汰(クジャクの羽根)論)

性淘汰とは、異性をめぐる競争に関しては、種の保存法則に反することも行うという考え方です。例えば、クジャクは、天敵の目標とされるリスクがあるにもかかわらず、ケバケバしい色の羽で異性にアピールします。

(江端の所感) これも、種の保存法則との矛盾を説明するには十分だと思いますが、「痩せている人間(主に女性)」を「好む(主に男性)」理由の説明には足りないと思います。

#### 【仮説4】衣服で美しく装うため(「装飾」優位論)



画像はイメージです

人類は、防寒や外傷を避けるために、衣服という防護具を装着しなければなりません。しかし、異性を魅了する第1歩は「見た目」です。そこで人類は、防護具を装着しても、なお美しく装うために、身体の方を改造する(痩せる)ことを選択したのです。

(江端の所感) 「防護具を美しく装着する」ところまでは分かりますが、「美しく装着」した状態を、「好む」理由の説明には足りないと思います。

#### 【仮説5】人間は走る(運動能力が高い)個体を選ぼうとするため(「アスリート」優位論)

人間は長く走ることにかけてはどの種よりも優れており、獲物を追いかけて回して疲れさせ、倒れたところを捕まえた、という説もあります。痩せていることは、「十分に走り回ることができる」ことの証明であって、走り回れる人間こそが、生存競争に勝ってきたのです。私たちが、陸上競技会やバレエ、フィギュアスケートを好んで見ることは、そのためです。

(江端の所感) 「瘦身は、運動による『結果』にすぎない」→「運動できる(走れる)人類が生存競争を生き残った」という新しい観点の仮説だと思います。

## 【仮説6】太っていることを「醜い」と感じるため（「肥満」嫌悪論）

人間が生き残るためには、痩せすぎ、太りすぎ、いずれも望ましくはありません。しかし、人類は、そのほとんどの時代を（現在の基準でいう）「痩せすぎ」の状態でも生きてきたと考えられます。従って、私たちは「太っている」人間を、同じ人類として認識できないのです。さらに、それだけでは足りず「醜い」とさえ感じてしまい、その反動で、「痩せる」という行為に走っているのです。

（江端の所感）「太っている人間＝人間以外の生き物」という認識が遺伝子に組み込まれている、という斬新な説です（多くの方を激怒させそうですが）。

## 【仮説7】食事の量を減らすことで、種の多様性と社会性を獲得するため（「少食」優位論）

「太る」ことを選択した集団と、「痩せる」という選択をした集団を比較してみます。

「太る」ことを選択した集団は、生存できる個体数は、必然的に減少します。また、強者が弱者を排除し、少数精鋭の小さな社会となります。その一方で、「食べ物を分け合う」という考え方がないので、他人の助力を期待できない社会であるとも言えます。

これは、出生から離乳、成人までに時間のかかる人類にとって存続を危うくします。



画像はイメージです

比して、「痩せる」ことを選択した集団は、1人当たりの食事量が少なくて済み、生存できる個体数も増加します。また、「食べ物を分け合う」という考え方は、社会性をはぐくみ、集団としての存続をより確実なものにするのです。

（江端の所感）一定の食料しかない状況で、「種」として最大利益を得るために「痩せる」ことを選択してきた、というゲーム理論に基づく見事な説です。

## 【仮説8】ダイエットは芸術活動であるため（「ダイエット＝創作活動」論）

創作は人類だけが有する能力であり、自らの肉体を自らの意思で改造したいという欲望が、種の保存に有利に働くからです。

（江端の所感）楽しく読ませていただきました。ところで、最近の研究では、ネアンデルタール人（♀）が化粧をしていたことが分かってきたのですが、その話を聞いていた嫁さんが、私の服装を見て、「ネアンデルタール人ですら……」と、ため息をつきながらつぶやいていたことを思い出しました。

## 「AKB＝肥満アイドルグループ」論

---

先日、出張で、私の席に立ち寄った後輩が、私の仮説検討の進捗状況を聞きにやってきました。

後輩:「で、先月、『[ひと通り合理的に説明できる1つの仮説を持っています](#)』と、偉そうに豪語していた江端さんの仮説とやらは、何ですか？」

江端:「私の仮説は、『AKB=肥満アイドルグループ』論だよ」(【仮説9】)

- AKBグループは、現代であれば、いわゆる「痩せすぎ」のグループに属するかもしれないが、食料事情が劣悪だった古代においては、それでも、十分に太った健康体であり、出産リスクの低い、理想的な体型であった
- 古代人の平均年齢を軽く超えていながら、人前で飛んだり跳ねたり踊ったりする彼女達は、私たちの遺伝子の記憶の中では、ほとんど「神」と同視できるほど、希少価値のある奇跡の生命体であった

つまり、私は、「痩身が美しいと認識される」のではなく、「遺伝子が『子孫を残しやすい健康体』であると誤認」して、それが「『美しい』と感じるように錯覚させている」と考えたのです。

この裏を取るために、データとして使える旧石器時代(1万8000年前)の日本人と、その以後の日本人の人体データ\*)を用いて、検証作業を開始しました。

\*)「日本人のからだー健康・身体データ集」(鈴木隆雄 著、朝倉書店 1996年4月)

旧石器時代の日本人の身長(女性)は144cm、今の小学生5年生程度の身長です。AKBの平均身長が159cmですので、相当に小柄と言えます。平均寿命は14.6歳ということから、私の仮説は正しいかのようにも思えました。

ところが、旧石器時代の日本人の体格を調べてみると、貧相な体格ではなく、下半身などに至っては現代人より頑丈だったようです。確かに、食料事情は良くなかったかもしれませんが、年がら年中、飢えていたというわけでもなかったはず。もしそうなら、彼等は存続することができなかつたはず。

旧石器時代は、狩猟をベースに生きていますので、毎日のように山や海を駆け回っており、エネルギー消費量は高く、そのため現代の私たちよりも、食事から摂取するエネルギーは多かったようです。幼児期の病死率が高いために平均年齢が引き下げられていますが、5歳を経過すれば、その後の平均余命は20年も跳ね上がっています。

そして、何より、ほんの100年前まで女性は多産だったのです。

初潮から閉経まで、常に妊娠と出産と、そして子どもとの死別を繰り返すハードな人生を生き抜いていました(今でも、[そういう国はありますし](#)、日本も100年前までは[そんな感じでした](#))。

以上の検証より、

瘦身体型を、出産に理想的な体型と「誤認」する遺伝子が組み込まれた ―― という、江端の仮説『AKB=肥満アイドルグループ説』は、ここに崩れ落ちることになったのです。



画像はイメージです

□

ところで ―― この連載、「世界を数字で回してみよう」の読者の皆さんの中には、

『江端は最初から、結論を知っていて(あるいは計算を終了して)、その後で、コラムの内容を、おもしろ、おかしく組み立てている』

と、信じている人がいるようですが、残念ながら、そんな「クール」で「ナイスガイ」なこと、私はできていません。私は大抵の場合、原稿の執筆とデータ解析を、同時進行で行っているのです。

この「締切直前に、『自分の仮説に裏切られる』という恐怖」を、どうやったら読者の皆さんに理解してもらえるだろうか ―― と、最近、そんなことばかりを考えています。

閑話休題。

## 「出産適齢期偽装」論

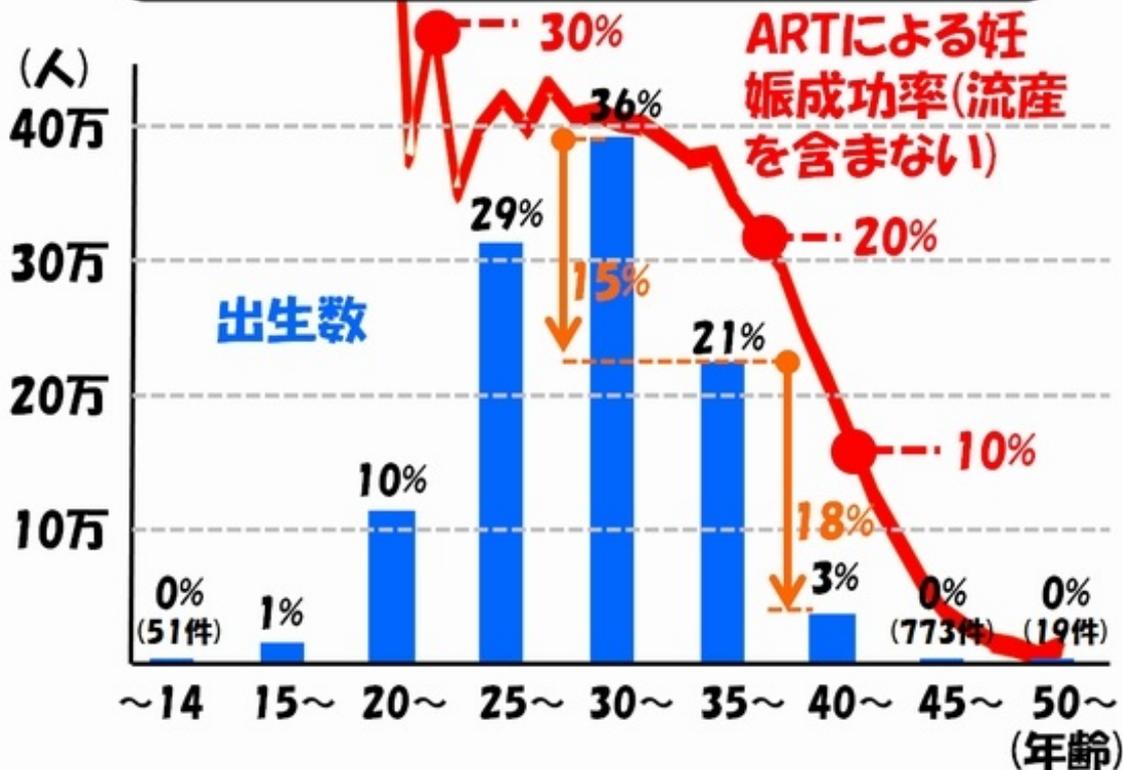
---

江端:「と、まあ、こんな感じで、予定していた仮説が大コケして困っているんだ。助けてくれなかな?」

後輩:「……江端さんは、『若い女性は出産に有利である』というデータを持っていますよね?」

江端:「持っているよ。データをグラフに表わした時、腰が抜けるほどびっくりしたけど([参考](#))」

## 母の年齢別 出生数と ARTによる妊娠成功率の関係



青色の棒グラフは、母の年齢別の出産数の比率を示しています。これに対して、赤色の折線グラフは、不妊治療[生殖補助技術 (Assisted Reproductive Technology: ART)]を行ったカップルの妊娠の成功率を示しています(参考)。

「不妊治療をする」ということは「100%出産する意思がある」ということであり、その場合であっても、妊娠成功率は、20代→30代→40代→50代の順番で、おおまかに3→2→1→0という比率で減少しているのです。

後輩:「だったら『痩身が美しいと認識されてしまう理由』は明快じゃないですか。『元気に見せるため』ですよ」

江端:「えっと……よく分からないんだけど」

後輩:「今回、半年で10kg以上のダイエットを達成した江端さんなら分かると思いますが、痩せると日常での動きが機敏になったでしょう?」

江端:「確かに。体が軽くなって、日常の動作がとてもラクになったように思う」

後輩:「つまり、痩身であることは、活動的になれるということなんですよ。活動的であるというこ

とは、元気に見えるということなんですよ。元気に見えるということは、『健康体に見える』ということなんですよ」

江端:「一気に畳み込むな! 訳が分からん!」

後輩:「例えば、アイドルたちが、舞台の上で、歌いながら飛んだり跳ねたりするを見て、『病弱だな』と思う人はいないでしょう」

江端:「そりゃそうだ」

後輩:「『健康体に見える』ことは、元気な子どもをたくさん産める可能性をアピールすることにもなっていますよね」

江端:「……あ!」

それは、盲点だった。

後輩:「つまり、(1)ダイエットは元気な健康体を示す有効な手段で、(2)元気な健康体のアピールは、元気な子どもをたくさん産める可能性のアピールにもなっているのですよ」

江端:「確かに……それは、遺伝子の『種の保存戦略』と合致する」

後輩:「ところで、江端さん。実際のところ、女性の出産の最適年齢はいくつですか?」

江端:「生物としては、初潮後できるだけ早い時期であって、体の成長が一段落する年齢だから、14~15歳といったところかな」

後輩:「なるほど。つまりAKBのメンバは、3~4歳ほどサバを読むために、舞台の上で、歌いながら飛んだり跳ねたりしているわけですよ。本人たちは意識していないでしょうが」

江端:「し、しかし、それはAKBのようなアイドルグループだけに適用される仮説であって……」

と言うと、後輩はキョトンとした顔をして言いました。

後輩:「何言っているんですか、江端さん。女性の『化粧』や『装飾』は、14~15歳に、少しでも近づいて見せるための偽装戦略ですよ」(【仮説10】「出産適齢年齢『偽装』」論)



【仮説10】「出産適齢年齢『偽装』」論

江端:「え?そうなの?」

後輩:「もちろん、本人たちは意識していないでしょうが」

江端:「つまり、ダイエットだけでなく、化粧も衣服も装飾も、全てが遺伝子の『種の保存戦略』のために、仕組まれているということか」

後輩:「そういうことです」

「種の保存」から「個の保存」へ

---

かなり過激な仮説ではありますが、一応筋は通っていると思いました。しかし、それでも、納得できない部分があり、後輩に反論してみました。

江端:「しかしだな、それでは出産適齢期を過ぎた後に、ダイエットを試みる女性がたくさんいて、化粧や装飾を続けていることの、説明ができないぞ。男だってオシャレに興味がある人間はたくさんいるはずだ」

利己的遺伝子論においては、種を残した後の個体は「何の価値もない」ただの肉塊であると考えます。実際、男女ともに、子どもを産みやすい時期を経過した途端に、性欲は弱まり、肥満になり、視力、聴力は劣化し、ガンなどの発病率もいきなり跳ね上がり、そして加齢臭が発生します

(参考)。

この利己的遺伝子のロジックを徹底すれば『役目(出産と育児)が終わった後の個体は、とつと死滅させて食いぶちを減らす』が最適戦略となります。――ましてや、出産適齢期を過ぎた後に、ダイエット、化粧、装飾なんぞに、モチベーションを発生させるような個体は、真っ先に抹殺しなければならないはずなのです。

後輩:「うーん。それは、つまり、『種の保存戦略』だけが、絶対ではないということですね」

江端:「いや、そんな、あっさりと言われても……」

後輩:「ところで、江端さん。今回の10kgのダイエットで、体が動くようになって、その後、気分はどう変わりましたか？」

江端:「え？ 気分？ 突然走っても臍を切ることもなくなったし、何十年ぶりかに「風を切る」という感覚も思い出したし―― そうだなあ、「楽しい」かな」

後輩:「それです。『楽しい』です。ダイエットは苦しいですが、その代わり快適な日々を送るためのカラダが提供されます。化粧をすることも、服を着ることも、結局のところ“楽しい”のです。そして、“楽しい”は、個体を健康な状態で長期間維持する(健康寿命)のために、もっとも有効な戦略であることは、よく知られていますよね」

江端:「それは、出産適齢期の後に、『種の保存戦略』が『個の保存戦略』に切り替わる、ということか？」

後輩:「遺伝子は、矛盾した2つの保存戦略を同時に持つ必要があったということなのでしょう。『種』なくして『個』はなく、『個』なくして『種』もないですから」

その後も後輩との話は続き、「男性」の種の保存戦略と個の保存戦略について議論をしたのですが、結局、男性に使える武器は、どの場面においても「権力(金)」と「若さ」の2つしかないという、なんとも切ない結論に至ってしまいましたので、その内容の説明は、割愛させていただきます。

納得できる仮説はどれだ？

---

以上、「『痩身ダイエットは種の存続が危機にさらされる可能性があるにもかかわらず、痩身が美しいと認識されてしまう理由』を合理的に説明する」、10の仮説をご紹介します。

では最後に、冒頭の「私の『嫁萌え』」の発生原因として、この私自身が納得できそうな仮説をチョイスしてみたいと思います。

仮説	内容	採否	理由(「痩せる=優位」観点から)
#1	ネット性欲処理システム化論	×	優位性は説明していない
#2	出産リスク幻想論	×	優位性は説明していない
#3	性淘汰(クジャクの羽根)論	△	「#10」の偽装戦略の一部として
#4	「装飾」優位論	△	「#10」の偽装戦略の一部として
#5	「アスリート」優位論	△	「#10」の偽装戦略の一部として
#6	「肥満」嫌悪論	△	優位性を間接的に説明している
#7	「少食」優位論	○	説得力がある
#8	「ダイエット=創作活動」論	×	優位性は説明していない
#9	「肥満」優位論 <b>江端説</b>	×	検証の結果、却下
#10	「出産適齢年令」偽装」論	○	説得力がある

(真面目に検証したのは、【仮説9】だけですが)、やはり、私の『嫁萌え』は、私の嫁さんに対する愛とは別の次元で――遺伝子レベルで仕組まれていて、私の感情とは別に、本能的に――発生した、と考えると問題なさそうです。

どこまでが「愛」で、何ををもって「本能」と呼ぶか、それは大変難しいテーゼとは思いますが、私としては、一応納得のできる仮説を手に入れることができ、十分に満足しています。

今回の「仮説」の募集に応じていただいた方に、この場を借りて御礼申し上げます。

読者の皆さんにおいては、飲み会での話題の1つとして、楽しんでいただければ幸いです。

□

では、最後に少しだけ、次回の内容に触れておきたいと思います。

以前、担当のMさんから、

『女性は太る時には、ウエストから大きくなり、足、顔、そして最後にバストが大きくなります』  
『しかし、ダイエットをすると胸から小さくなっていき、最後にウエストが細くなるのです』

とのメールを頂いたことがあります(嫁さんから同じ話を聞きました)。

また、今回、多くの女性の皆さんのアンケート結果からも、

1. ダイエットは、体重を減らすことではなくて、「理想のスタイル」を実現することであり、
2. ダイエットは、その「理想のスタイル」を叩き壊す方向で、進行する

――つまり『減らしたくない部位(バスト)を優先的に減らし、増やしたくない部位(ウエスト)を優先的に増やす

と考えられていることが分かってきました。(そして同時に、男性にはそのビジョンが絶無であることも)。

次回、この「部分痩せ」の可能性について、数字で回してみたいと思います。私は、これらの数

値を眺めているうちに、「部分痩せ」や「部位ごとに太る/痩せる順番」などについては、ある種の「数字の錯覚」があるのではないか思い始めています。

――でも、もう、仮説は言わない。

「締切直前に、『自分の仮説に裏切られる』という恐怖」は、もうコリゴリですから。

では、また来月お会いしましょう。

---

※本記事へのコメントは、江端氏HP上の[専用コーナー](#)へお寄せください。

---

[アイティメディアID](#)の登録会員の皆さまは、下記のリンクから、公開時にメールでお知らせする「連載アラート」に登録できます。



## Profile

江端智一（えばたともち）

日本の大手総合電機メーカーの主任研究員。1991年に入社。「サンマとサバ」を2種類のセンサーだけで判別するという電子レンジの食品自動判別アルゴリズムの発明を皮切りに、エンジン制御からネットワーク監視、無線ネットワーク、屋内GPS、鉄道システムまで幅広い分野の研究開発に携わる。

意外な視点から繰り出される特許発明には定評が高く、特許権に関して強いこだわりを持つ。特に熾烈（しれつ）を極めた海外特許庁との戦いにおいて、審査官を交代させるまで戦い抜いて特許査定を奪取した話は、今なお伝説として「本人」が語り継いでいる。共同研究のために赴任した米国での2年間の生活では、会話の1割の単語だけを拾って残りの9割を推測し、相手の言っている内容を理解しないで会話を強行するという希少な能力を獲得し、凱旋帰国。

私生活においては、辛辣（しんらつ）な切り口で語られるエッセイをWebサイト「[こぼれネット](#)」で発表し続け、カルト的なファンから圧倒的な支持を得ている。また週末には、LANを敷設するために自宅の庭に穴を掘り、侵入検知センサーを設置し、24時間体制のホームセキュリティシステムを構築することを趣味としている。このシステムは現在も拡張を続けており、その完成形態は「本人」も知らない。

本連載の内容は、個人の意見および見解であり、所属する組織を代表したものではありません。



### [人類は、“ダイエットに失敗する”ようにできている](#)

今回から新シリーズとしてダイエットを取り上げます。ダイエットー。飽食の時代にあつて、それは永遠の課題といつても過言ではないテーマになっています。さて、このダイエットにまつわる「数字」を読み解いていくと、実に面白い傾向と、ある1つの仮説が見えてきます。



### [誰も望んでいない“グローバル化”、それでもエンジニアが海外に送り込まれる理由とは？](#)

今回は実践編(プレゼンテーション[後編])です。前編ではプレゼンの“表向き”の戦略を紹介しましたが、後編では、プレゼンにおける、もっとドロドロした“オトナの事情”に絡む事項、すなわち“裏向き”の戦略についてお話しします。裏向きの戦略とは、ひと言で言うなら「空気を読む」こと。ではなぜ、それが大事になってくるのでしょうか。その答えは、グローバル化について、ある大胆な仮説を立てれば見えてきます。



### [「失敗が約束された地」への希望なき出発……海外出張は攻撃的に準備する](#)

海外出張とは、「魅惑の世界」への出発ではありません。「失敗が約束された地」への希望なき出発です。それゆえ、およそ考え得るあらゆるトラブルパターンを想定し、入念な準備をしておくことが、われわれ英語に愛されないエンジニアが無事に帰還するための唯一無二の方法なのです。今回は、実践編(海外出張準備)の前編として、江端流の攻撃的かつ戦略的な出張準備を紹介します。



### [EtherCATって結局なに? ~「ご主人様」と「メイド」で説明しよう](#)

何十台ものロボットが高速、かつ正確に動き、次々とモノを製造していくー。このような、いわゆるファクトリオートメーション(FA)を支えるネットワーク方式の1つに、EtherCATがあります。EtherCATは、高速・高精度にマシンを制御する産業向けのネットワークですが、私は、無謀(?)にも、これを使って自宅のホームセキュリティシステムを構築してみようと思いついたのです。本連載では、その“手法”の全てを公開します。

Copyright© 2016 ITmedia, Inc. All Rights Reserved.

